

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	工業英語
科目基礎情報						
科目番号	0098		科目区分		専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科	創造工学科（電気・電子コース）		対象学年		5	
開設期	前期		週時間数		1	
教科書/教材	配布物、PPT、確認テスト					
担当教員	正村 亮					
到達目標						
現代においてコミュニケーションツールとしての英語は必須である。技術英語に頻出の表現を身につけ、将来専門分野での研究や、社会で必要とされる基本的な能力を身につけることをめざす。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	科学技術に関する文章を読み、内容を理解できる。		科学技術に関する文章を読み、だいたい理解できる。		科学技術に関する文章を読めず、理解できない。	
評価項目2	科学技術に関する文章を読み、日本語で内容をまとめる事ができる。		科学技術に関する文章を読み、日本語で大まかな内容をまとめる事ができる。		科学技術に関する文章を読み、日本語で内容をまとめる事ができない。	
評価項目3	基礎的な語彙を正確に把握している。		基礎的な語彙をだいたい把握している。		基礎的な語彙を把握していない。	
学科の到達目標項目との関係						
(F) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。						
教育方法等						
概要	科学技術に関する英文の読解力、語彙力をつける。 電気・電子系の技術英語に頻出の、専門用語や構文を学び、自身の研究課題に関連する学術論文の概要を理解できる程度まで学習する。					
授業の進め方・方法	技術英語に頻出の特有の英語表現についてオムニバスの講義を実施する 論文読解、内容のまとめ方、プレゼンテーション方法を総合的に学ぶ。 成績評価は、提出物、プレゼンテーション、授業態度によって総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。 本授業は学修単位のため、授業の復習を行う自習時間を含むものとする。					
注意点	オフィスアワー：授業開講日の16:00～17:00を基本とするが、教員在室時には随時対応する。					
事前・事後学習、オフィスアワー						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション		授業の進め方、テスト、レポートについて把握し、本授業の到達目標について理解する。	
		2週	科学英語に頻出の単語や表現の理解。		科学技術に関する専門的な英文を読み、専門用語を理解し、内容を読み取ることができる。 科学英語で頻出の単語や表現を理解できる。	
		3週	論文読解、プレゼンテーション。		各自の専門分野の学術論文を読み理解することができる。 読んだ論文の内容を発表し、他の学生へ説明することができる。	
		4週	論文読解、プレゼンテーション。		各自の専門分野の学術論文を読み理解することができる。 読んだ論文の内容を発表し、他の学生へ説明することができる。	
		5週	論文読解、プレゼンテーション。		各自の専門分野の学術論文を読み理解することができる。 読んだ論文の内容を発表し、他の学生へ説明することができる。	
		6週	論文読解、プレゼンテーション。		各自の専門分野の学術論文を読み理解することができる。 読んだ論文の内容を発表し、他の学生へ説明することができる。	
		7週	論文読解、プレゼンテーション。		各自の専門分野の学術論文を読み理解することができる。 読んだ論文の内容を発表し、他の学生へ説明することができる。	
		8週	論文読解、プレゼンテーション。		各自の専門分野の学術論文を読み理解することができる。 読んだ論文の内容を発表し、他の学生へ説明することができる。	
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				

		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力向上のための学習	関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3		
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3		
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3		
評価割合							
	提出物	プレゼンテーション	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	35	10	0	10	0	0	55
専門的能力	35	10	0	0	0	0	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0